
経済 TOPICS

No. 160

(2019年4月16日)

景気ウォッチング（要旨）

I. 日本経済 … 減速しつつも緩やかな回復基調を維持しているが、景況感が悪化している。

中国や欧州経済の減速を受け、生産と輸出に弱めの動きがみられるが、労働需給は引続きタイトで、設備投資や個人消費は堅調に推移しているため、全体としては減速しつつも緩やかな回復基調を維持している。この間、米中貿易協議の動向や Brexit の迷走などが先行きの不透明感を濃くしていることもあり、製造業の景況感が悪化している。

金融市場は、欧米における金融政策の軌道修正などから、長期金利が低下し、0%近辺で推移している。為替レート(対ドル)は、111~112円前後で推移している。株価は、昨年末から緩やかに回復している。

II. 米国経済 … 海外経済の減速の影響などから、減速しはじめている。

実質 GDP(2018/4Q)をみると、個人消費と設備投資は堅調なほか、政府支出も下支えしているが、輸出と住宅投資にやや弱さが見られる。また、足許でも、生産や個人消費が頭打ちとなっていることから、全体として減速しはじめている。この間、賃金は上昇しているものの、物価は落ち着いている。

金融市場は、FRBが本年中は政策金利を引き上げない方針に転換(昨年12月時点:本年中に2回引上げ)したことから、長期金利が短期金利とほぼ同水準にまで低下。株価は、昨年末以降急回復し、足許ではピークに近い水準。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所